

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 3 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870102120		
法人名	医療法人 たくま会		
事業所名	グループホーム セト		
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号 (電話) 089-965-0001		
管理者	黒田 ひとみ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 10 月 23 日	評価確定日	平成 19 年 12 月 5 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 22 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 20 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	23.9 人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	14,300 円	
敷金	有( )円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,167 円	

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 1 日事業所記入)

利用者人数	26 名	男性 6 名	女性 20 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名
要介護 3	13 名	要介護 4	6 名
要介護 5	3 名	要支援 2	名
年齢	平均 85.4 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景の残る静かな住宅地に建つホームである。ホームは医療法人が開設し7年目を迎え、地域に溶け込み、地域との交流も進んでいる。職員は利用者の思いやできることを大事にした支援を心がけ、共に花壇や菜園作りに励んだり、近くの喫茶店でお茶を楽しんだりしている。また、ホームは利用者の健康管理や医療面での支援には特に力を入れ、リフトのある入浴設備を整え、また利用者の緊急時にも即対応できる体制がある。同じ敷地内にある同法人のデイサービス、ヘルパーステーション等の福祉施設との連携・交流もサービス向上に活かされている。

## 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)  
前回の評価後、理念を意識した支援を心がけているが、更なる努力を期待する。また、緊急時の対応や成年後見制度については学習会、マニュアルの充実で理解が深まっている。職員の意見の反映やストレス解消への対策も少しずつ改善している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  
運営者、管理者、職員は評価の意義を理解し、全職員で自己評価を行ない、日頃のケアの振り返りの参考になったと考えている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  
運営推進会議は定期的に行われている。会議での討議内容はホームでの避難訓練、行事、家族会等の報告後の話し合い、提案が主なものである。会議での意見・提案はホームの運営やサービス向上に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  
家族の意見は面会時、運営推進会議や行事への参加時、家族会等から把握し運営に反映している。内部及び外部の苦情相談窓口は文書に明記し、家族にも説明している。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  
ホームは地域の自治会、役員会にも出席し、地域の行事にも参加し自然な交流が進んでいる。地域住民はホームの行事にも気軽に参加し、利用者とともに行事を楽しんでいる。ホームの藤棚や池は地域のボランティアが作ってくれたものである。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)  
氏名 黒田ひとみ・蔭谷きよみ

評価完了日 平成 19 年 9 月 10 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域に密着し、事業所が地域にあたりまえに存在していると思えるよう根付いている。事業所・家族だけが入居者を支えているのではない。地域にも支えてもらっていることを常に話している。またそれが「穏やか」な生活につながっている。具体的には運営推進会議にとどまらず、地域の役員会にも参加していることで、地域の暮らしの継続につながっている。  (外部評価) 全職員で話し合っつくりあげた分かりやすい理念である。また、理念とともに地域密着を含めた運営方針を明示し、ユニット毎に掲げている。	※	地域との主なパイプ役は施設長、管理者、ホーム長が担っている。事業所職員がもっと地域に出向き、入居者の暮らしをありのまま伝えていけるようより多くの機会を持ちたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員は理念を述べるができる。しかしスタッフに意識の差がある。理念を理解し、それが確実に日々の業務に生かされているとは言えない。  (外部評価) 職員は「明るく、楽しく、穏やかに」という理念の実践には職員同士の良好な関係が大切と考え、お互いに思いやりを持って協力的に日頃の業務に取り組んでいる。しかし、理念を意識したケアや振り返りは十分ではない。	※	運営理念を掲げるだけでなく、日々確認し、実践することで、どうなっていけるのか等、スタッフ同士が考える機会をもっと持つ。理念をケアサービスの提供時に意識できるようにする。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域行事に参加したり、事業所行事に地域の方、ご家族に参加いただいたり、家族会、運営推進会議などに参加していただき、意見交換の機会を多く持っている。	※	入居者家族にもっと運営推進会議に参加してもらえ工夫をする。早めに参加案内はしている。1度参加された御家族には運営推進会議の大切さを理解してもらえているので、たくさんの方の参加を強く訴えていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員は地域の方にすすんであいさつするようにしている。限られた地域の方は気軽に立ち寄ってくださるが、多くの方が気軽に立ち寄ることは少ない。しかし、運営推進会議の際には近隣の方がよく参加していただける。演芸等のためのボランティアの方が訪問されることは多い。		気軽に立ち寄っていただけるような行事を工夫している。(蛍の鑑賞会) 今後もより工夫していく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会議の中で、事業所の活動内容など説明し、意見交換を行っている。地域行事にもできるだけ参加し、協力している。 <hr/> (外部評価) ホームは自治会に入り、役員会にも出席している。地域の盆踊りの練習や運動会にも参加し、米を地域から購入する等の自然な交流がある。地域住民はホームの行事にも気軽に参加し、利用者とともに楽しんでいる。ホームの藤棚や池は地域のボランティアが作ってくれたものである。	※	地域の協力を求めて入居者も地域行事に参加できるように働きかける。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 事業所職員が町内会に出向き、認知症高齢者の病態や生活について話したり、介護現場の現状を理解してもらうための講演活動を行ったりしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が自己評価に取り組み、サービスの向上のため自覚をもって評価項目ひとつひとつに向き合っている。改善点については地道に職員・開設者が一緒に検討して対策を講じている。 <hr/> (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解したうえで自己評価を全職員で行い、日頃のケアの振り返りに役立ったと考えている。前回の評価を活かした改善にも全職員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 入居者・御家族・町内会役員・地域包括支援センター職員・介護保険課担当者等の参加により、外部評価結果、活動計画を説明し、意見交換している。そこで出た意見については全職員に伝えて必要に応じて話し合う機会を持っている。  (外部評価) 運営推進会議では避難訓練、行事、家族会等の報告をし、話し合う中でホームへの理解・協力を得よう努めている。会議での意見、提案はサービス向上や運営に活かしている。	※	もっと御家族の参加があり、多くの意見がいただけるように努める。場合によっては事前に意見をいただくようにする。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村からの実習を受け入れたり、実務連絡会に参加することで、必要な情報が得られるように努力している。サービス上の不明な点についてはその都度保険者に相談している。  (外部評価) 地域包括支援センターの職員が度々ホームを訪れ、情報交換や話し合いが行われている。ホームは市担当者の研修も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について知らない職員が多かったため、各ユニットにファイルを作成して、いつでも職員が確認できるものを作成している。入居時に説明をしているが積極的に活用されるかたはいなかった。	※	今後も必要な方には理解できるまで、説明していく。また職員の学習機会を増やす。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 関連資料や記事があれば、各ユニットに配布し、全スタッフが目を通すようにしている。また必要に応じて研修会を開いている。お互いが言葉づかいや対応に関して注意し合うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間をとって十分説明している。入居しても納得いかない内容については再度説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時、家族会の際には自由に意見を言える機会を設けている。入居者、家族と十分なコミュニケーションをとって、その都度話合うようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1回手紙で暮らしぶり、介護状況等を報告している。健康状態に異常があれば、その都度家族に連絡している。また面会の際には十分に時間をとってより詳しく報告している。 <hr/> (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、毎月各利用者の担当職員から家族あてに手紙で報告している。ホームが預かっている金銭は利用者ごとに出納帳を作り、家族の来訪時に確認・署名してもらい、領収書を手渡している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年1～2回の家族会や、行事参加・運営推進会議の際に意見交換している。改善項目についてはカンファレンスで話し合って改善に向け努力している。 <hr/> (外部評価) 家族の意見は面会時、運営推進会議や行事への参加時、年2回の家族会等から把握し、運営に反映させている。内部及び外部の苦情相談窓口は文書に明記し、家族にも説明している。	※	家族だけの話しあいの時間をもっと持って、代表者の方から意見をいただく方法も必要である。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスにて意見を出し合い、それを責任者会議や運営会議に反映している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 事前にわかっているような行事ごとについては柔軟に勤務調整している。また入居者の緊急時には法人理事長、副理事、看護師等の応援がえられ、ケアの継続ができるように配置している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の離職により、入居者のケアの継続に悪影響がないように努力している。計画作成担当者やユニット長の移動がほとんどないことで安心できる部分がある。  (外部評価) 常勤職員の離職や異動は少なく、利用者が概ね馴染みの職員の支援を継続して受け続けられる体制がある。利用者には担当職員が主に対応するため、異動時も全職員が支援するのに比べてダメージも少ない。	※	パート職員の離職については防ぎきれない部分がある。しかし、入居者のダメージを最小限に抑えるために、今後も介護計画や記録の充実、家族への報告・協力の働きかけに努力する。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修プログラムや介護マニュアルを作って段階に応じた研修プログラムを作っている。所外研修の機会やさまざまな学習会の機会があり、必要に応じて、管理者や介護支援専門員からのアドバイスがある。  (外部評価) 運営者は職員の育成には研修が重要と考えており、外部研修への参加を推進している。外部研修への参加は出張扱いとし、研修後はホーム内での報告を行っている。内部での勉強会は3か月に1回程度、年間計画に組み入れて実施している。責任者会議、ユニット会議、ケア会議等でのミニ学習もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 行事ごとに互いに招待しあって参加したり、グループホーム同士の小規模な学習会もある。その学習会のために事例をまとめて検討会としたりしている。  (外部評価) 医療機関を運営母体とするグループホーム同士の交流会があり、3～4か月に1回事例検討会を行っている。交流会での学びを各ホームの質向上に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体の「親睦会」を結成してストレス解消に努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) さまざまな基本職種、年齢の違いもあり、職員全員の思いを把握するに至っていない。職員の実績、勤務状況は管理者がユニットケアに入ったり、責任者会議を通して把握できている。	※	職員全員が本音で話せるような機会、個別面談の機会を設けるようにする。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面談・カンファレンスは家族、利用者も参加していただき、傾聴に努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居時から家族と話す時間を十分にとって、不安感や困ったことについてよく聴くようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時点で、ケアカンファレンス等を開催して話し合い、入居者にとって必要な支援をして、関係機関と一緒に話し合うようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) その人なりの生き方、生活リズムを知るために家族から情報を得て、暮らしの継続ができるよう工夫している。  (外部評価) 前もって家族から情報を得た上で対応するよう心がけている。入居前に敷地内のデイサービスを利用するなどの工夫をしながら、ホームでの生活の雰囲気に早く馴染めるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人を尊重し、誇りやプライバシーが保たれる言葉かけや対応をしている。共に時間を共有し、本人の意見や希望をよく聞いて暮らしの中で生かせるよう見守りながら支えている。  (外部評価) 利用者とともに料理の下ごしらえ、食事の片づけ、洗濯物たたみ等を行っている。また、ホーム庭での食事会、外食、花見等を一緒に楽しんでいる。利用者の笑顔に励まされることもある。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会、面会時などで、家族の思い、考えを聞き、よりよい生活が送れるよう共に検討している。また日頃から話しやすい環境を整え、感情が表出しやすいように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者、ご家族から詳細な家族関係を把握し、それに基づいて支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望があれば、電話をかけたり、取りつぎ、馴染みの人や場所など関係が途切れないように支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 性別や認知症の程度により関係性が異なるが、日々の言動を観察しながらよりよい環境やかかわりが持てるように配慮している。例えばホールの座席、ソファの座席など・・・またコミュニケーションをうまくとれない方については職員が間に入って孤立しないように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 施設、病院に入所、入院した場合には密に連絡を取り合い、あ関係を継続させている。退居された場合はその後の関係が続くことは少ないが、手紙などで関係を継続される方もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時や日々の会話の中から趣味や以前の経験を把握し、カンファレンスを行い希望にそえるように努めている。  (外部評価) 朝のラジオ体操、花壇の水やりや草ひき、掃除等、各利用者の生活リズムにそった支援をしている。また、一人ひとりの生活パターンを尊重した対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族から情報を収集し、入居後本人との会話の中からこれまでの生活環境などの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 個々の状態に応じ変更できるように1日の生活の流れを介護記録・連絡ノート、気づきノートの活用で把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族会、面会時にご家族から意見や要望を聞き、利用者と日ごろからコミュニケーションをとる中で、意見・要望に応じカンファレンスを実施し、計画作成している。  (外部評価) 利用者の担当職員が中心になって話し合いを行い、個別性のある介護計画を作成している。話し合いには職員のほか可能な範囲で利用者本人や家族も参加している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月ごとには定期的に見直ししている。状況に変化があった場合はその都度見直しを行っている。  (外部評価) 利用者の状況が変化した時には介護計画の見直しを行っている。特に変化がない場合でも1か月に1回程度は計画の見直しが必要かどうかのチェックをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録をし、介護計画上に反映される内容には蛍光マーカーで印を入れ、認識できるように工夫している。また気になること等は必要に応じて申し送りやカンファレンスで共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 同敷地内の通所介護・訪問介護事業所等と連携して短期入所を受け入れたり、場合によっては行事を合同で実施したりして柔軟に支援している。  (外部評価) ホームは受診の支援、入退院の連絡調整や入院中の情報収集、家族の急な宿泊等、利用者や家族の状況に応じた柔軟な支援をしている。	※	慣れ親しんだグループホームでできるだけ最期まで暮らしたいという本人、家族の意向が強くなっている。今後そういったニーズにしっかり応えられるように体制強化に努めたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 養護学校・中、高生、一般のボランティアの方の参加や防災訓練、救命訓練などが行われ、協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 介護支援専門員が中心になって支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 管理者・介護支援専門員が中心になって協働できている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に診察が必要な方には家族や本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿うように支援している。また適切な医療が提供できるように、主治医と連携をとりながら継続して医療が受けられるよう配慮している。  (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。基本的には職員同行の受診であるが、受診が長時間に及ぶ場合は家族が同行し、ホームで送迎をしている。利用者の状況に合わせて往診も行っている。夜間も医師がすぐ駆けつけられる体制がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて専門医の診察を受けたり、特に入居前にはできるだけ専門医に受診することを勧めている。また専門医との事例検討会を通して意見をいただくこともある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 各ユニットに看護職員が配置されており、看護職員会議を通して情報の共有方法や処置の体制等について取り決めている。また主治医との連携も主に行っている。特に入居者、ご家族は安心されている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時から病態の把握に努め、安心して退院し、元の生活に戻れるように情報交換している。看護職員、主治医が主に窓口になって病院関係者と退院後の生活に関しての情報交換をしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 主治医・家族の意見を確認した上で、職員全員で話し合い個別に援助方針を決めている。ターミナルケア全体像に関して漠然としか考えられない職員もいる。  (外部評価) 重度化や終末期は利用者や家族の意向を尊重しながら対応について話し合っている。	※	職員全員がターミナルケアに関して学習を重ね、個別に話し合う必要がある場合には全員が参加して納得いくまで繰り返す。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 疾病の理解、治療方針や今後考えられる経過についても頻回にカンファレンスしている。療養上事業所として可能な援助に関しては入居時から伝えているが、状況に応じてその都度見極めている。また当初の説明と違っていても可能な限り支援していける策も検討している。		ターミナル＝重度化と単純に考えるのではなく、その人の生をその人が納得いけるよう職員がどう支援していくかを考える機会をもつようしている。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で十分なカンファレンスや情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを損ねないよう言葉かけには互いに注意しあっている。  (外部評価) さりげない食事介助や小声での排泄確認等、利用者のプライドを大事にした支援をしている。記録類はプライバシーに留意し、保管・管理が適切にできている。	※	常に「原点」を忘れず、専門職であることに誇りをもって今後も職員が互いに注意し合い、振りかえるようにする。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 1度では説明しても理解してもらえないことも多い。何が不満か、どのような希望があるのか表情や感情からくみ取ったりしながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々に満足されているのか不明な部分もある。ついつい重度の入居者や行動障害のある入居者の介護に手間取ることがあり、希望に叶えず、待ってもらうことも多い。 <hr/> (外部評価) 職員は利用者の生活リズムや一日をどう過ごしたいかを大切に支援をしており、一人ひとりの思いを聞きながら対応している。また、職員は利用者へのケアでお互いに気になる言動があれば、注意し合っている。	※	毎日その人のペースを十分に大切にできない日には「今日はどうぞごそうか」といったように日々の目標をもって支援していく方法も考えたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ほとんどの方が出張美容を利用することが多い。中には家族と外出して行きつけの理容店に出かける方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 以前に比べてADLの低下から職員と一緒に調理が難しくなっている方が多いが、中には調理下準備を一緒にして下さる方もいる。 <hr/> (外部評価) 職員は経口摂取を大事と考え、時間がかかっても自力で食べられる利用者を見守り、状態に応じてきざみ食で対応するなど配慮している。美味しく食べられるよう献立や味付けにも工夫し、時折ホームの庭での食事会も行っている。また、料理の下ごしらえや片付けも利用者とともにしている。	※	簡単な下ごしらえは今後も一緒に行いたい。調理全般ができなくても買い物と一緒に行ってメニューを考えたりして調理に携わってもらえるように支援していく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) その人の好みに合わせて個別に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	(自己評価) 個別に排泄パターンを把握し、アセスメントして介護計画に生かしている。また入居者が気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前にバイタルチェック・健康状態を確認して本人の希望に沿った日や時間に支援している。  (外部評価) 利用者の希望にそった入浴支援をしている。入浴を望まない場合でも3日に1回程度は入浴できるよう配慮している。介護度の高い利用者にはリフト使用での入浴も可能である。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 活動リズムに応じて日中外気浴したり、眠前にホットミルクを飲んでもらったりしている。冬場は希望される人に湯たんぽを使用したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 健康状態の悪化により難しい方もいるが、できるかぎり気晴らしができるように支援している。  (外部評価) 職員はアートフラワー、花壇の水やりや草ひき、近くの喫茶店でのひととき、料理の下ごしらえ、掃除、洗濯物たたみ等、利用者の気晴らしや役割をともに楽しみながら支援している。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理能力のある方については本人に管理してもらっている。自己管理できない方は金庫に個別に管理して、お小遣い帳として記録に残し、家族に定期的に確認してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 身体レベルに応じて、決して多くはないが、外出支援している。  (外部評価) 車いすの利用者も一緒に買物やドライブ、喫茶店へ出かけることもあるが、一人ひとりのその日の希望にそった外出支援は十分ではない。	※	利用者が戸外の気持ちよさや季節感を感じながら生き生きと過ごすことを支援するためにも、近くの店舗への買い物やホームの敷地内を花壇や菜園を眺めながら散歩する等、さらに戸外に出かける機会づくりの工夫を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年4～5回御家族の協力も得ながら実現している。入居者の身体レベルの低下もあり、車椅子の方が多い。協力職員の呼びかけをしながら工夫している。	※	グループホームの年間行事計画はたてているが、ユニットごとの外出計画がたてられていない。ユニットごとに外出計画を立てたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 日常的に利用できる。電話は子機を使って居室でも利用できる。手紙も自由に書いたりでき、個人宛の手紙も郵送されてくる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 笑顔であいさつすることを心がけている。お茶を勧めたりして、会話がスムーズにできるように加わることもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 正しく理解されている。ベッド柵の固定については主治医が必要と考える際に検討を重ねて同意書をいただき、その後の観察、検討も継続している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠はしていない。  (外部評価) 職員は鍵をかけないことの意義を理解し、玄関には日中鍵をかけていない。利用者が一人で外を出歩いていると、同じ敷地内のデイサービスの職員や近所の住民が知らせてくれる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 記録、食事、配膳ほか作業（洗濯たたみ）も入居者がよく見える場所にて行い、どこで、誰が何をしているのか確認できるように配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) はさみ、爪きり、刃物等は自己管理でき自他に危害を加えるリスクが無い場合は持ってもらっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 徘徊、誤嚥、嚥下困難、下肢筋力の低下等、一人ひとりの状態を確認し、個々に応じた事故防止に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的ではないが、訓練は行っている。基本的に主治医、看護師の指示に従って実施している。マニュアルも作成されており、ファイルが目の届くところにある。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施し、運営推進会議でも報告している。地域とともに防災意識を高めるため、消防署で行われる防災トークにも毎月参加している。  (外部評価) 年に3回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。ホームは地域の自主防災会に入会し、消防署の防災トークにも参加している。ホームのある敷地の庭は広く、地域の避難場所にもなっている。災害時連絡網の中に町内会長も入っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒、誤嚥など考えられるリスクを支援計画立案時に課題として検討している。また家族によく説明して理解していただける。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 職員全員でわかるように経過を追って記録している。職員間で申し送りしながら共有し、主治医にも都度報告している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方される薬を分包してもらって個人に合せて服用しやすい形態に工夫して支援している。また使用薬の説明書を個人ごとにファイル化し、変更があってもわかるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 入居者個々の支援計画書内に便秘に対する援助方法を記入して共有している。飲食物の工夫については適宜行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔内の清浄に努めている。また義歯は毎夕洗浄し、消毒している。個々の口腔の状態に応じて支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 疾病、嚥下能力や体調に応じて食事内容を変更して食べられる工夫をしている。状態に応じて食事の形態も個別に工夫している。また1日の水分出納チェックを行い、必要に応じて主治医に報告して援助している。 <hr/> (外部評価) 食べる量や水分量を毎回チェックしている。一人ひとりの状態に合わせてミキサー食やきざみ食にしたり、利用者の力量に応じた介助をしている。献立の栄養バランスは運営法人内の栄養士がチェックしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルに沿って実行している。また地域社会の動向にも目を向け情報を収集し、研修活動にも参加している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材に関しては衛生管理マニュアルに沿って管理し、また食器や調理器具については夕食後に消毒している。また感染症が多発する時期には毎食後消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 敷地が広いため施設的なイメージがあるが、周囲に畑、花壇もあり、四季を通して花や野菜が植えられ、家庭的である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具は一般家庭と同じような家具で共有スペースも広く、ゆったりくつろげる。  (外部評価) 随所に空気清浄機を設置し、気になる匂いはない。共用空間はゆったりしており、居間は家庭的なソファや棚、絵画、時計等が飾られ、畳の間もあるくつろげる空間となっている。浴室、トイレ等は朝夕塩素系漂白剤で拭いており清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有部分にソファがあり、TVがあり、自由に過ごせる空間もある。またソファもユニットによっては2か所にあり、個別にくつろげる。	※	個別に1人用のソファを置いたりして工夫してもいい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できるだけ長年使用された家具を持ち込んでもらっている。また入居者の動きやすさ、安全確保を第一に希望を聞きながら配置し、工夫している。  (外部評価) 居室は利用者の使い慣れたいすや小ダンス、時計、お気に入りのぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋になっている。仏壇を居室に置き、お供えや線香をあげる利用者もいる。畳の居室も2室ある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気に留意し、清掃時はもちろん、自然に外気が入るように居室の窓を開けて工夫している。また各居室には空気清浄機があり、トイレには脱臭装置のある。冬季には空気の乾燥を防ぐために、加湿器を利用している。入居者に確認しながらまた、体調に配慮しながら温度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホール・トイレ・洗面所等各箇所に手すりがあり、入居者が安全に自立した生活が送れるように役立っている。また必要に応じて居室内も家具の配置を工夫して安全に留意している。ホールは広いが、車イスを使用される方が増え、ホール内のすれ違いができないときもある。	※	十分なスペースが確保できるように家具等の位置を工夫する。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 認知症の程度、理解力に応じ、自然な形でできることをしてもらっている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内の花壇や畑に自由に行って散歩できたりする。また池の生き物を見て楽しむこともできる。時には自由に花を摘んで生けたり、押し花にされる方もいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	職員は認知症高齢者のありのままのそのすべてを受け入れる気持ちで支援しており、援助している言葉で、その思いが伝わってくる。入居者個々にどう暮らしたいのか・どう思っているのか話し合うことが多い。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	職員がゆったりすることは少ないが、時間がゆっくり流れているように思えるように配慮している。職員の言葉や対応の仕方がゆったりとしているので、入居者はゆったり過ごせていると思えるのではないかと
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	特に、起床、食事時間、体調の違いもあり、それぞれのペースでないと利用者負担がかかることも多い。自然にそれぞれのペースができてきている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の「笑顔」が職員の支えである。この「笑顔」があったらすべて許される。と常に職員が話している。ホームでの生活の中で職員の支援なくしてはその「笑顔」は引き出せないと思っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	重度化が進み、体調が不安定で、行きたいところにいつでも・・・という訳にはいかないことが増えている。しかし体調を見ながら、外出や散歩、外気浴を楽しむ機会をつくっている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	とにかく医療面や健康管理については家族に密に連絡をとっている。主治医の協力・他の医療機関の協力も得られる。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の希望を聞きながら、また家族と相談しながら柔軟に支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族会・面会時には時間をとって話を聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	面会者は多く、友人が訪ねてくることも多い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	町内会にも出席し、事業所に対する理解が深まっている。事業所の行事にもとても協力的である。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の重度化がすすみ、職員の負担感はますます増える一方ではあるが、職員は笑顔を忘れず支援している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の声掛けに笑顔がかえってくる。外出したり違った場所に行くと、馴染みの職員から離れようとしめない。信頼されていると感じることがある。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	特に医療面のサポートに対して家族から信頼されている。運営にたいしても協力的である。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

職員が利用者をいとおしく思い、「笑顔」に癒され、利用者が職員の「笑顔」に安心して、「笑顔」で反応してくれる。開設当初から入居されている方も多く、家族介護＋専門職の介護と一緒に介護と思うときがある。医療法人が母体であり、しっかりとした医療面のサポートが受けられる。事業主が地域にも一緒に出て行き地域との連携にも尽力している。地域との連携がとれ、地域に根付いた事業所を目指している。



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V.サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。  
 (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
 (他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	黒田ひとみ、蔭谷きよみ
評価完了日	平成 19 年 9 月 10 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「明るく、楽しく、穏やかに」という理念を掲げ、地域の方が大勢参加する夏祭りや、秋祭りの神輿乗り入れなど地域の皆様との交流の機会がより多く設けられるように取り組んでいる。  (外部評価) 全職員で話し合ってつくりあげた分かりやすい理念である。また、理念とともに地域密着を含めた運営方針を明示し、ユニット毎に掲げている。	※	地域の盆踊り大会など、利用者も出来るだけ多く参加するよう心がけたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 前回の自己評価で欠けていた取り組みであったので、今年度の各ユニットの目標を設定する際、理念を具体化できる目標設定に心がけるように伝え、皆で取り組んでいる。  (外部評価) 職員は「明るく、楽しく、穏やかに」という理念の実践には職員同士の良好な関係が大切と考え、お互いに思いやりを持って協力的に日頃の業務に取り組んでいる。しかし、理念を意識したケアや振り返りは十分ではない。	※	「明るく、楽しく、穏やかに」の理念の中で、少し欠けている「楽しく」の方法を研究し、実践したい。  管理者と職員が申し送りや会議などの機会をとらえ、理念を意識しながら話し合い、実践に活かしていくことを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で年間計画を説明する際や家族会の時などに理念に触れるようにしている。頻回な機会ではないが、以前より意識が出来るようになった。	※	地域の方ともっと触れ合う機会を増やしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 普段の暮らしの中で、挨拶や声かけなど、いい関係が出来ている。近隣の方たちとは菜園でいろんな野菜を植えているので、野菜苗を戴いたり、野菜の作り方などの意見交換もしている。地域の会合などには職員が順番に出席するよう心がけている。	※	主たる職員は近隣の方たちと気軽に話したりして日常的なつき合いが出来ているが、職員全員がこのようなつき合いが出来るような取り組みがしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 責任者だけでなく一般の職員がより多くの地域活動に参加出来るよう皆で話し合い、工夫している。  (外部評価) ホームは自治会に入り、役員会にも出席している。地域の盆踊りの練習や運動会にも参加し、米を地域から購入する等の自然な交流がある。地域住民はホームの行事にも気軽に参加し、利用者とともに楽しんでいる。ホームの藤棚や池は地域のボランティアが作ってくれたものである。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の自主防災活動の話し合いなどでは、特に職員で役立つ内容を地域と一緒に考えている。当事業所には看護師も介護福祉士もいるので、お手伝い出来ることがあれば遠慮しないで声をかけて欲しいと伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価結果を次年度の目標に活かせるようにユニットで話し合っている。  (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解したうえで自己評価を全職員で行い、日頃のケアの振り返りに役立ったと考えている。前回の評価を活かした改善にも全職員で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年間計画、実績など取り組み状況について地域の方、家族、市の職員、地域包括支援センターの担当者などに参加して貰い、伝えている。  (外部評価) 運営推進会議では避難訓練、行事、家族会等の報告をし、話し合う中でホームへの理解・協力を得よう努めている。会議での意見、提案はサービス向上や運営に活かしている。	※	直前の運営推進会議において、地域の方より散歩の時間を午後2時～5時までにしたら、子供たちの下校時と重なり、子供の見守り隊の役目にもなるとの意見があったので、今後こういった意見も参考にしながらサービスの向上に役立てたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市役所の職員の研修を受け入れたり、サービスや運営上の相談をしている。又、他のグループホームでの取り組みを問い合わせたりしている。  (外部評価) 地域包括支援センターの職員が度々ホームを訪れ、情報交換や話し合いが行われている。ホームは市担当者の研修も受け入れている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、研修に参加している職員が限られている。	※	制度が必要な利用者にはこれらを活用できるよう支援したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ニュースになった虐待など回覧で回し、見過ごすことがないように全職員に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には十分な時間をとって説明しており、入居されてからも疑問点を尋ねやすいような配慮をしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に利用者の一部に出席をしていただいているが、意見などは少ない。何回か出席することによって意見や不満などが出てくるのではないかと思う。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 利用者の暮らしぶりなどは、毎月のお便りの中で、比較的詳しく報告している。金銭面については預かり金の残高を毎月の手紙で報告しているし、預かり金入金都度各人の出納簿を確認して貰い、確認のサインを頂いている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、毎月各利用者の担当職員から家族あてに手紙で報告している。ホームが預かっている金銭は利用者ごとに出納帳を作り、家族の来訪時に確認・署名してもらい、領収書を手渡している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部評価もその機会の一つである。家族会や運営推進会議にはご家族も出席していただいているので、職員や外部に意見等を表わせやすい環境を作っている。意見等があれば職員に報告し、運営に反映させている。 (外部評価) 家族の意見は面会時、運営推進会議や行事への参加時、年2回の家族会等から把握し、運営に反映させている。内部及び外部の苦情相談窓口は文書に明記し、家族にも説明している。	※	不満、苦情についての意見は少ないので、より言いやすい環境を考える。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員間の口頭でのやり取りの一部が取り入れられ、反映されている。	※	個別に意見提案が出来る工夫が必要と考えている。個人面談が出来ない場合は書面で提案できるようにする。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 業務や行事を合わせて、出来るだけ柔軟な対応が出来るように、また十分な見守り援助が出来るように勤務調整をしている。	※	急な入院時など、どうしても職員の都合がつかない場合は他の部門の職員やフリーの職員がいるため、融通が利きやすい。この体質を最大限に利用したい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 出来るだけ利用者にダメージがないようにユニットの職員とも相談して異動している。  (外部評価) 常勤職員の離職や異動は少なく、利用者が概ね馴染みの職員の支援を継続して受け続けられる体制がある。利用者には担当職員が主に対応するため、異動時も全職員が支援するのに比べてダメージも少ない。	※	移動の際、看護師がいないユニットに優先して看護師を異動するようにしている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勤務経験を考慮し、本人の意見も確認しながら研修を受ける機会を確保している。  (外部評価) 運営者は職員の育成には研修が重要と考えており、外部研修への参加を推進している。外部研修への参加は出張扱いとし、研修後はホーム内での報告を行っている。内部での勉強会は3か月に1回程度、年間計画に組み入れて実施している。責任者会議、ユニット会議、ケア会議等でのミニ学習もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会の総会などには職員が必ず出席をし、同業者との交流を図っている。同協議会の研修会などにも順番に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 医療機関を運営母体とするグループホーム同士の交流会があり、3～4か月に1回事例検討会を行っている。交流会での学びを各ホームの質向上に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 今年度初めて職員の親睦会を発足させた。この親睦会を通してストレスを発散できる機会を作っている。	※	昨年度は法人が経費を出してボーリング大会を開催した。職員の評判が良かったので、恒例化することになっている。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 資格試験などを受験し易い環境を作り、日程についても最大限考慮してくれている。	※	職員が率先して資格試験を受けるよう指導している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者本人よりもご家族との関係になっている場合が多い。	※	本人との信頼関係をもっと作るよう努力したい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族からの相談は納得いくまで聴くようにしている。また確認事項については入居前に必ず行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 在宅で受けていたサービス情報、又、その時の担当者から意見を聞いたりしながら、入居生活に満足いただけるかどうか見極めるようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 部屋が空いているときは試しに泊まっていただき、ご家族も納得の上での入居をお願いしている。同敷地内にあるデイサービスからの入居の場合は比較的スムーズに入居されている。慣れるまで毎日訪問されているご家族もいる。 <hr/> (外部評価) 前もって家族から情報を得た上で対応するよう心がけている。入居前に敷地内のデイサービスを利用するなどの工夫をしながら、ホームでの生活の雰囲気に早く馴染めるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人の思いに気づいたら、他の職員に申し送っている。職員はつらい時も利用者の笑顔に支えられている。 <hr/> (外部評価) 利用者とともに料理の下ごしらえ、食事の片づけ、洗濯物たたみ等を行っている。また、ホーム庭での食事会、外食、花見等を一緒に楽しんでいる。利用者の笑顔に励まされることもある。	※	出来るだけ喜怒哀楽を共にし、信頼関係を築いていきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者本人とご家族は一体の関係であるので、常にご家族と一緒に本人を支えたり、楽しんだりする関係を作る努力をしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 在宅での生活から必要な情報はしっかり聴取している。一歩離れたところからの介護で家族の負担が軽減できるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人からの電話や手紙など、その関係が継続できるように配慮している。馴染みの人が訪ねてきたときは、笑顔で本人に名前を告げ、会わせるよう努めている。	※	出来れば馴染みの場所へも連れて行ってあげたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲の良い利用者については出来るだけ邪魔をしないようにして、一人である利用者には孤立感を与えないように話しかけている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 一時入院した利用者については退院に向け、ご家族や関係機関と情報交換をしている。	※	年賀状などご迷惑にならない程度の交流はしたいと思う。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンスを通じて意向を確認する。本人に確認できない場合にはご家族と相談している。  (外部評価) 朝のラジオ体操、花壇の水やりや草ひき、掃除等、各利用者の生活リズムにそった支援をしている。また、一人ひとりの生活パターンを尊重した対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェースシートに詳細を調査し、記入している。入居された後でも少しづつこれまでの生活を聴く機会を持つようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの世界を大切に、出来るだけその人のペースに沿って過ごして貰えるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ユニットの職員だけでなく、本人、家族に確認しながら介護計画を作成している。  (外部評価) 利用者の担当職員が中心になって話し合いを行い、個別性のある介護計画を作成している。話し合いには職員のほか可能な範囲で利用者本人や家族も参加している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態の変化に応じて、的確な時期の見直しができるよう介護計画を見直している。  (外部評価) 利用者の状況が変化した時には介護計画の見直しを行っている。特に変化がない場合でも1か月に1回程度は計画の見直しが必要かどうかのチェックをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 誰が見ても分かりやすく、介護計画に活かせるように色分け表示をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診介助、健康相談など、そのときの要望に応じて柔軟に対応している。  (外部評価) ホームは受診の支援、入退院の連絡調整や入院中の情報収集、家族の急な宿泊等、利用者や家族の状況に応じた柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の学校、警察、消防署等の協力を得ながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) その人にとって家族にとって、その必要性に応じた相談が出来るようにしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議等を通じて協働している。運営会議推進には毎回出席していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族、介護職員が安心できるように、又、適切な医療が受けられるように配慮している。  (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。基本的には職員同行の受診であるが、受診が長時間に及ぶ場合は家族が同行し、ホームで送迎をしている。利用者の状況に合わせて往診も行っている。夜間も医師がすぐ駆けつけられる体制がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症専門医との研修会で学習したり、必要に応じて受診もしている。当ホームの理事長である院長も物忘れ外来をしているし、ほとんど毎日ホームに来ているので、よく相談をしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ユニットに一人以上の看護職員を配置しているので、支援については問題ない。	※	ユニットに一人以上の看護職員の配置は守っていききたい。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 介護要約や主治医との情報交換により、安心して入院治療が受けられるように配慮している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した指針を入居時から説明し、家族会等の際にも折に触れ説明している。  (外部評価) 重度化や終末期は利用者や家族の意向を尊重しながら対応について話し合っている。	※	ご家族の最大の関心事なので、しっかり説明をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 看護職員を中心にかかりつけ医との連携を密に対応している。又、重度化してからの状態変化にも対応できるようにチームで検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 別のグループホームや特別養護老人ホームなどに移る場合、これまでのケアに関して情報を提供し、本人やご家族が安心できるように話合っている。又、住み替え後も情報交換している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 職員については誓約書にて個人情報の取り扱いについて確認している。利用者については個人情報の取り扱いについて同意書で確認を取っている。  (外部評価) さりげない食事介助や小声での排泄確認等、利用者のプライドを大事にした支援をしている。記録類はプライバシーに留意し、保管・管理が適切にできている。	※	新入職員には細かく説明をしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人に希望などを聞く場合はゆっくりと確認できる速度で話すように心がけている。	※	言葉が聞き取りにくい方もいるが、一生懸命聞いて理解しようとしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事時間は一応きめられているが、朝食などは起きる時間がまちまちなので本人の時間に合わせている。  (外部評価) 職員は利用者の生活リズムや一日をどう過ごしたいかを大切に支援をしており、一人ひとりの思いを聞きながら対応している。また、職員は利用者へのケアでお互いに気になる言動があれば、注意し合っている。	※	一人ひとりに今日は何をしたいかを聞く習慣をつけたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) ほとんどの方は出張理美容を利用されているが、ご家族と外出して美容院に行かれている方もいる。病気の時以外は寝巻きで一日過ごすことのないようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 後片付けは一緒にしていただける方がいる。元気な方にはなるべくお手伝いをお願いするようにしている。  (外部評価) 職員は経口摂取を大事と考え、時間がかかっても自力で食べられる利用者を見守り、状態に応じてきざみ食で対応するなど配慮している。美味しく食べられるよう献立や味付けにも工夫し、時折ホームの庭での食事会も行っている。また、料理の下ごしらえや片付けも利用者とともにしている。	※	利用者の食べたいものを聞いたりする機会をもっと増やしたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品については一人ひとりが楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、介護計画に反映できるようにしている。又、計画に入っていない項目でもチェック票を使って確認している。	※	タイミングよく声をかけて排泄を促し、オムツの使用を減らしたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 体調や一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。  (外部評価) 利用者の希望にそった入浴支援をしている。入浴を望まない場合でも3日に1回程度は入浴できるよう配慮している。介護度の高い利用者にはリフト使用での入浴も可能である。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズムに合わせて休息をとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 常に生活歴を参考にした支援をしている。例えば華道をしていた方は、敷地内のデイサービスで毎月のように行われるフラワーアレンジメントに参加していただくなどしている。  (外部評価) 職員はアートフラワー、花壇の水やりや草ひき、近くの喫茶店でのひととき、料理の下ごしらえ、掃除、洗濯物たたみ等、利用者の気晴らしや役割をともに楽しみながら支援している。	※	一人ひとりの役割や楽しみごとを引き出す努力をする必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方には所持していただき、定期的に来る店の果物など自由を買って貰っている。管理が出来ない方は預かっているお小遣いで買い物をして貰っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 戸外に出かける機会を持てるように計画を立てて実施している。ご家族が来られたとき、よく外出される利用者もいる。	※	もっと外出の機会を増やすよう考えたい。
			(外部評価) 車いすの利用者も一緒に買物やドライブ、喫茶店へ出かけることもあるが、一人ひとりのその日の希望にそった外出支援は十分ではない。	※	利用者が戸外の気持ちよさや季節感を感じながら生き生きと過ごすことを支援するためにも、近くの店舗への買い物やホームの敷地内を花壇や菜園を眺めながら散歩する等、さらに戸外に出かける機会づくりの工夫を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 墓参りなどご家族と一緒に出かけられる方は多い。行きたいところを訴える利用者は少ないので、初詣、椿まつりなど、こちらで計画して、希望者を募って出かけるようにしている。	※	故郷めぐりなど計画していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の子機を使って自ら電話されている方もいる。手紙の支援は個別にしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問についてはオープンで、面会時間についても制限は特に設けていないので、家族はもちろん知人、友人の方たちが予約なしで突然訪れている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止委員会を年1回開催し、やむを得ず拘束が必要と思われる場合は主治医等に意見を聞き、ご家族の承認を得て行っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には鍵がないので、かけることは一切ない。夜勤者一人の場合などやむを得ない場合は命の危険を伴うため、ユニットの入り口に鍵をかけることはある。  (外部評価) 職員は鍵をかけないことの意義を理解し、玄関には日中鍵をかけていない。利用者が一人で外を出歩いていると、同じ敷地内のデイサービスの職員や近所の住民が知らせてくれる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員はホールで利用者の所在が確認できる場所に居て様子を把握し、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品を必要とときに出して使えるようにしたり、職員が見守りながら使って貰うようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 気づきノートや事故報告書から防止策を検討し、事故防止に取り組んでいる。	※	居室内での転倒について防ぐ方法を考える必要がある。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力を得て応急手当講習会を行っている。看護職員や主治医の協力が常に得られるため、安心感はある。	※	新しい職員も入ってくるので、定期的に訓練をする必要がある。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練や火災訓練は年3回は実施している。地域の人々への協力の働きかけは運営推進会議で度々行っている。緊急連絡網に承諾を得て、町内会長の電話番号を入れている。  (外部評価) 年に3回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。ホームは地域の自主防災会に入会し、消防署の防災トークにも参加している。ホームのある敷地の庭は広く、地域の避難場所にもなっている。災害時連絡網の中に町内会長も入っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 手紙やご家族の来訪時にリスクについて詳しく説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調の変化はどの職員も早期に発見でき、その都度主治医と相談して対処している。異常があった場合は記録にも残し、職員全員が目を通すようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬シートで薬の効用、副作用など種々の注意事項を含めて理解できるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) ヨーグルト、牛乳など便秘改善のための援助を行っているが、必要に応じて緩下剤を使用することもある。	※	ヨーグルトや牛乳の他に便秘に良い食材なども検討し、取り入れたい。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後はどの利用者も口腔内の清潔のため歯磨きや洗浄をしている。又、必要に応じ歯科受診により、いつまでも美味しく口から食事が摂取できるよう支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重測定をしたり定期的な健康診断により、出来るだけ良好な栄養状態が保てるよう支援している。食事や水分の摂取量は毎日チェックし、1日に取る摂取量を確保している。 <hr/> (外部評価) 食べる量や水分量を毎回チェックしている。一人ひとりの状態に合わせてミキサー食やきざみ食にしたり、利用者の力量に応じた介助をしている。献立の栄養バランスは運営法人内の栄養士がチェックしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 年間を通じて対処している。衛生管理マニュアルに沿って対応している。数年前のノロウイルスの発生により、保健所からの厳しい指導があったから掃除や消毒を怠らないようにしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所はもちろん、まな板、布きん、食器、包丁等の消毒を徹底している。必要以上に生鮮食品を購入しないようにしている。又、賞味期限等を確認して食品を保存している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 外部評価員から指摘されていた建物やユニット名前と配置図を門に表示したところ、目的の場所に行き易くなったと言われている。門に鍵がかかっていないので、家族や近隣の方も気軽に立ち寄っていただいている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者にとって出来るだけ居心地の良い馴染める空間となるよう、不快な音や光を無くし、季節の花などを生けたりしている。  (外部評価) 随所に空気清浄機を設置し、気になる匂いはない。共用空間はゆったりしており、居間は家庭的なソファや棚、絵画、時計等が飾られ、畳の間もあるくつろげる空間となっている。浴室、トイレ等は朝夕塩素系漂白剤で拭いており清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 机やソファを何箇所にも分けて置いているので、一人で座ったり、気の合う者同士が座ったり、思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室については使い慣れたダンスや机などを持ち込んで貰っている。新しい物については本人やご家族と相談して居心地よく過ごせるような物を入れている。  (外部評価) 居室は利用者の使い慣れたすや小ダンス、時計、お気に入りのぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋になっている。仏壇を居室に置き、お供えや線香をあげる利用者もいる。畳の居室も2室ある。	※	居室に調度品等が少なく淋しいところについては、生活感がでるよう何か考えてみたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 各居室及びホール、トイレに空気清浄器を配置している。インフルエンザ等の感染症予防のためもあり、換気には十分気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホール、トイレ等には手すりをくまなく配置しており、車椅子の利用者でもホール内を自走して移動できるような十分な空間がある。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自分の居室が分かるよう大きく名札を貼り付けているし、トイレなども分かりやすいような表示がしてある。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 広い敷地に花壇、野菜畑があり、その他のスペースもゆったりとしているので敷地内でも散歩が楽しめる。椅子やソファもいたるところにあり、日向ぼっこやおしゃべりをしたりして楽しんでいる。	※	夏の期間、日陰がまだまだ少ないので、何か工夫して日陰を作りたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	勤務日数が少ない職員以外は利用者のさまざまな意向を掴んでいる。新しい職員については時間が経つにつれて掴んでくる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	グループホームの良さであり、一緒に歌を歌ったり、おしゃべりをする時間を毎日作っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床時間、食事の時間、お風呂の回数などなるべく一人ひとりのペースに合わせるようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	支援の仕方に変化するとは思うが、重度の利用者については表情が変わりにくい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員が計画して出かけるとき以外はほとんど出かけることがない。ご家族と出かけることはある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ホールではほぼ不安なく過ごせているが、居室での転倒など不安のある方がいる。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が1人～2人の時間帯などは柔軟な支援が出来ない場合がある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	新入職員や一部の職員については信頼関係がまだできていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	2日に1回訪れるご家族もいるが、めったに訪問者のない入居者もいるので、平均すると数日に1回程度になる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	毎回のように新しい方の出席があり、理解者と応援者は確実に増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	収入面とか利用者の状態が悪い方に変化していることなどが影響している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員のご家族の反応をみて判断した。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	最近利用を始めた方はまだ満足をしていないが、長く入居している利用者のご家族は満足されているようである。日頃の言葉や家族会の際の発言で判断した。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

当事業所は地域とのつながりを特に大切にしている。又、利用者はもちろんであるが、全体的にはご家族の多くの方の信頼を得ている。これらのことについては今後もっと伸ばして行きたい。職員の定着について真剣に研究をしたい。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホームせと
(ユニット名)	すみれ
記入者(管理者)	
氏名	黒田ひとみ・蔭谷きよみ
評価完了日	平成 19 年 9 月 10 日



(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 誰もが馴染みやすい事業所独自の理念を職員が話し合って作りあげている。  (外部評価) 全職員で話し合っつくりあげた分かりやすい理念である。また、理念とともに地域密着を含めた運営方針を明示し、ユニット毎に掲げている。	※	地域の中での生活が理念にある「穏やかな生活」につながっていくのだと考えている。そのために今後も入居者の暮らしを伝えていく機会を多くもちたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念について話したり、掲示により意識づけているが、職員全員の意識の中にあるとは考えにくい。実践の中で、結び付けられるようにケアしていく必要がある。  (外部評価) 職員は「明るく、楽しく、穏やかに」という理念の実践には職員同士の良好な関係が大切と考え、お互いに思いやりを持って協力的に日頃の業務に取り組んでいる。しかし、理念を意識したケアや振り返りは十分ではない。	※	職員全員が日々確認して実践に生かすように、日々、ひとつひとつのケアに目標をもっていく。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 地域行事に参加したり、事業所行事に、地域の方が参加して下さる。運営推進会議も含めて意見交換の機会が多い。		今以上に入居者家族と地域での暮らしを考えていきたい。運営推進会議等がより活用できるといい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 職員は地域の方にすすんで挨拶するようにしている。運営推進会議には必ず参加いただき、同じ方だけでなく、新しく参加して下さる方もある。行事の際、地域の緊急時に助けを求めたり、退院の挨拶に来てくださることもある。		地域の方やボラティアの方が気軽に立ち寄り、お手伝いいただけるような行事を今後も考えたい。来年は蛍の鑑賞会など・・・
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一員として役員会に参加し、地域の組織運営についても理解できている。また地域の行事にも職員が参加しており、その都度意見交換できている。  (外部評価) ホームは自治会に入り、役員会にも出席している。地域の盆踊りの練習や運動会にも参加し、米を地域から購入する等の自然な交流がある。地域住民はホームの行事にも気軽に参加し、利用者とともに楽しんでいる。ホームの藤棚や池は地域のボランティアが作ってくれたものである。	※	地域行事への参加が職員に限られることもある。地域の方の協力も得ながら、一緒に参加できるように工夫していく。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 事業所職員が町内会に出向き、事あるごとに認知症高齢者の病態や生活について話すようにしている。職員の若い力、備えている備品等で役立つことがあれば協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が自己評価に取り組み、ひとつひとつ丁寧に検討して改善に向け努力している。  (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解したうえで自己評価を全職員で行い、日頃のケアの振り返りに役立ったと考えている。前回の評価を活かした改善にも全職員で取り組んでいる。		外部評価のみでなく、職員それぞれが年間目標を持ち、それに向かって努力している。年度末にはそれを評価していこうと思っている。また職員の役割に関しても振り返っていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議には入居者・御家族・町内会役員・介護保険課担当者・地域包括支援センター職員等の参加があり、評価結果、活動計画について報告している。また随時意見交換も行っている。推進会議の内容は職員に伝えて出た意見について話し合うようにしている。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議では避難訓練、行事、家族会等の報告をし、話し合う中でホームへの理解・協力を得よう努めている。会議での意見、提案はサービス向上や運営に活かしている。	※	もっと御家族の参加を求めていき、意見が出にくい場合は事前に意見を伺ったり、アンケートに協力いただく。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村からの実習を受け入れたり、実務連絡会等に参加して情報の収集に努めている。また不明な点があれば、その都度相談している。 <hr/> (外部評価) 地域包括支援センターの職員が度々ホームを訪れ、情報交換や話し合いが行われている。ホームは市担当者の研修も受け入れている。	※	地域包括支援センターに働きかけ、地域運営会議を発足していただくことで、居宅のケアマネだけでなく、地域密着型サービス事業所と保険者の担当者も合わせて意見交換していただく機会を設けてもらうなどしたいと思う。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業・成年後見制度について知らない職員が多かった。そのため、説明のファイルを各ユニットに作成し、いつでも学習できるようにした。入居者がいる場合は、契約時に活用に関して説明している。	※	今後も新しい職員も含めて理解できるまで、学習会を開催したり、所外研修に参加していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待に関する記事があれば、回覧でまわして職員で話し合える機会を作っている。また高齢者虐待防止法に関する研修会を開いている。職員の言葉使いや対応については互いに注意し合うようにしている。		今後も学習の機会をもっていこうと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間をとって説明している。入居後も不明な点があれば、その都度納得いただけるように説明している。特に家族会でその時間をとっている。		やむを得ず解約する場合もあるので、入院などで、解約の可能性がある場合には今後も改めて説明する。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者とのコミュニケーションを十分にとって意見を反映できるようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月に1回は暮らしぶりや介護状況について報告している。また健康状態に変化があれば、その都度家族に連絡している。また面会時には十分に家族とコミュニケーションをもっている。  (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は、毎月各利用者の担当職員から家族あてに手紙で報告している。ホームが預かっている金銭は利用者ごとに出納帳を作り、家族の来訪時に確認・署名してもらい、領収書を手渡している。		職員の移動については家族の来訪時に紹介している。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年1～2回の家族会、行事の来訪時、運営推進会議の際に意見を伺っている。またケアカンファレンスに参加していただいて、ケアに関する意見をその都度確認している。  (外部評価) 家族の意見は面会時、運営推進会議や行事への参加時、年2回の家族会等から把握し、運営に反映させている。内部及び外部の苦情相談窓口は文書に明記し、家族にも説明している。	※	職員に対して言いにくいことでも、家族同士なら言い合えることもある。家族同士で話す機会を持てるように配慮する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスにて意見を出し合い、責任者会議でまとめて検討し、場合によっては法人全体の運営会議にかけて全体で検討している。	※	時間をみつけて個人面談も考える。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務表を作成する際に行事や研修を先に位置づけ、柔軟に勤務調整ができるように配慮している。緊急時には法人代表である医師、看護師の協力が得られ、安心できる。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) なるべく馴染みの関係作りができるように必要最小限にしている。ユニット責任者や計画作成担当者の移動がないため、ダメージは少ない。  (外部評価) 常勤職員の離職や異動は少なく、利用者が概ね馴染みの職員の支援を継続して受け続けられる体制がある。利用者には担当職員が主に対応するため、異動時も全職員が支援するのに比べてダメージも少ない。	※	介護計画やケア経過が密に記載することでダメージを最小限にする。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人スタッフには段階を追って研修ができるプログラムをつくっている。介護マニュアルもあるので、参考にできる。ユニット長が教育担当者としているが、必要に応じて、管理者や介護支援専門員が協力している。  (外部評価) 運営者は職員の育成には研修が重要と考えており、外部研修への参加を推進している。外部研修への参加は出張扱いとし、研修後はホーム内での報告を行っている。内部での勉強会は3か月に1回程度、年間計画に組み入れて実施している。責任者会議、ユニット会議、ケア会議等でのミニ学習もある。		できるだけ研修に参加できる体制を考慮している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 行事ごとに互いに招待しあったり、少ない人数での認知症の事例検討会を専門医を中心として実施している。そこで交流が持てる。また他事業所の開設前に研修を受け入れたりして、相互に交流している。  (外部評価) 医療機関を運営母体とするグループホーム同士の交流会があり、3～4か月に1回事例検討会を行っている。交流会での学びを各ホームの質向上に役立てている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 事業所独自に「親睦会」を結成し、法人側からのバックアップもある。喫煙者の喫煙場所の確保、休憩室や会議室の確保などできている。個人の悩みについてはその都度相談に載るようにしている。	※	厳しい介護現場でのストレスマネジメントは永遠の課題である。互いの悩みを話し合える仲間づくりを大切にしたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) さまざまな年齢や基本職種もあるので、思いを把握することは難しい。しかし介護しているの喜びや達成感には共に共有するようにしている。	※	年度末に予定している業務目標の自己評価の際に個人面談を行い、1年間に成長したことを話し合う。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) できるだけ入居前から詳しい情報を得るようにしている。場合によっては自宅に訪問することもある。特に初回のカンファレンスにはできるだけ本人・家族にも参加していただくようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 特に御家族が不安なことを重点的に確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前に本人・御家族と相談する際に、意向を十分に確認するようにしているが、場合によっては他の在宅サービスの利用も含めて介護支援専門員が相談支援している。その場合は関係機関に連絡し、安心して介護サービスが受けられるように努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前に利用者・家族に見学いただき、場合によっては体験やショートステイサービスを利用して馴染んでいけるように工夫することもある。また同敷地内の在宅サービスを利用されている方は事前に少しグループホームで過ごしてみたりして工夫している。 <hr/> (外部評価) 前もって家族から情報を得た上で対応するよう心がけている。入居前に敷地内のデイサービスを利用するなどの工夫をしながら、ホームでの生活の雰囲気に早く馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 入居者の発言や表情の変化を大切にし、共に楽しみを見つけている。入居者の笑顔に職員が支えてもらっている。 <hr/> (外部評価) 利用者とともに料理の下ごしらえ、食事の片づけ、洗濯物たたみ等を行っている。また、ホーム庭での食事会、外食、花見等を一緒に楽しんでいる。利用者の笑顔に励まされることもある。	※	本人らしさが表出しやすい場面をより多くつくっていききたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会、面会の際には家族の思いをよく聞き、状況を詳しく説明していると、家族が見たこともない表情や行動の発見に驚くこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 御家族に協力を得て、詳細な家族関係の把握に努めている。またより良い関係を継続できるように支援している。		これからもより良い関係を維持できるように支援していきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 手紙や電話も自由にでき、面会も自由にできる。また友人や親族との馴染みの関係が途切れないように配慮している。	※	馴染みの場所にたずねたりする機会を持っていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 互いに見守ったり、上手に利用者が声を掛け合う場面も見られる。場面によっては利用者が叱責することもあるが、職員が対応するよりもいい場合もある。職員はそれを期待して協力を得ることもある。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後にあまりかかわることはないが、入院されて契約を終了された方は見舞に行ったりして関係を継続している。また入所されても状況を時々たずねたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを十分にとり、意向の把握に努めている。特に入居時は可能な限り本人、家族にカンファレンスに入ってもらって一緒に検討している。  (外部評価) 朝のラジオ体操、花壇の水やりや草ひき、掃除等、各利用者の生活リズムにそった支援をしている。また、一人ひとりの生活パターンを尊重した対応に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前、入居時にできるだけ詳細な情報を御家族の協力を得ながら把握している。その後は入居者との会話の中から情報を得て、特に本人がこだわることは大切にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 入居者の1日の流れを総合的にとらえている。本人の力を発揮できる場面は全体で共有して場面づくりに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族会、面会時にご家族から意見や要望を聞き、利用者との会話から希望、要望を聞いて介護計画を作成している。  (外部評価) 利用者の担当職員が中心になって話し合いを行い、個別性のある介護計画を作成している。話し合いには職員のほか可能な範囲で利用者本人や家族も参加している。	※	介護計画を作成しても再度アセスメントして、評価にそって柔軟に計画を修正していく。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3か月に1回程度は必ず見直している。状況や体調が変わればその都度新たに計画を作成している。サービスを実施していて気付いたことを計画表や支援経過に記入している。  (外部評価) 利用者の状況が変化した時には介護計画の見直しを行っている。特に変化がない場合でも1か月に1回程度は計画の見直しが必要かどうかのチェックをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録に残し、介護計画上実践を確認しなくてはいけない内容には蛍光ペンで注目できるように工夫している。実践内容については申し送りやカンファレンスで共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 短期入所を受け入れたり、医療連携体制を強化することで柔軟に支援できる。  (外部評価) ホームは受診の支援、入退院の連絡調整や入院中の情報収集、家族の急な宿泊等、利用者や家族の状況に応じた柔軟な支援をしている。	※	慣れ親しんだグループホームでの生活が継続できるように体制を強化していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 養護学校、中、高生、の実習を受け入れたり、一般の方のボランティアの協力を得ながら地域資源と協働している。防災訓練、救命訓練をはじめ、協力を得るようにしている		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 介護支援専門員を中心に支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 管理者、介護支援専門員を中心に地域包括支援センターと協働している。(特に入居希望がある場合には必要に応じて協働している。)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に本人、家族の希望を聞いてできるだけ継続した医療が受けられるように支援している。また状態の変化に応じて早急に必要な医療支援が受けられるように配慮している。  (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。基本的には職員同行の受診であるが、受診が長時間に及ぶ場合は家族が同行し、ホームで送迎をしている。利用者の状況に合わせて往診も行っている。夜間も医師がすぐ駆けつけられる体制がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて専門医の診察を受けたり、理事長が専門医と連携をとったりして支援している。また専門医と事例検討会を開いて意見をいただくこともある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 各ユニットに看護職員が配置されており、看護職員会議にて医療上の問題点についても協議している。またターミナルに関して医師とともに話し合うこともある。看護職員が情報を共有することで、医師との連携もとれている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合には、早急に介護サマリーを作成し、情報を提供している。また担当医、病院の担当者と話合っ、治療経過等の情報を得ている。早期に退院できるように度々病院を訪れて情報を得るようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 主治医、家族とも話し合い、個別に援助方針を決定している。ターミナルケアを漠然としか考えられない職員もいれば、しっかり受け止められるようになった職員もいる。  (外部評価) 重度化や終末期は利用者や家族の意向を尊重しながら対応について話し合っている。	※	個別にターミナルケアについて考える場合と広い意味でのターミナルケア・・より学習を重ねていきたい。最後までありのまま受け入れられるケアを目指したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 入居時から可能な援助方針については伝えているが、状況に応じて個別に話し合って対応している。今後考えられる状態像も含めて職員全員で話し合っ検討している。しかし、以前より全体で支え合おうという気持ちが強くなっている。		さまざまなターミナルを迎えた方を介護してきた。その都度職員も一喜一憂したが、その人がどう生きたか、その最後の時間に職員がどうかかわるのかという視点で介護できつつある。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 関係者間で十分な情報交換や援助方針を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人、一人生きてきた誇りを損ねることがないように職員が互いに注意し合うようにしている。対応方法も「この方にはこういう言葉かけが重要」といった内容がカンファレンスで出てくる。  (外部評価) さりげない食事介助や小声での排泄確認等、利用者のプライドを大事にした支援をしている。記録類はプライバシーに留意し、保管・管理が適切にできている。	※	今後も常に「原点」を忘れず、専門職としての誇りをもって支援していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) とにかく入居者のペースに合わせてケアすることで、自己決定を促せる。意志がはっきりとしない方は表情等で読み取るようにしている。		一度試みたことで実現しなかったことでも方法を変えると本人の必要なケアがスムーズに受け入れられることもある。柔軟な試みをこれからも大切にしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝の入居者の状態でその日のペースがつかめることも多い。互いにそれを伝えあい、そのペースを大切にしている。しかし、状態悪化した方、行動障害の激しい方のケアに費やされ、他の入居者を待たせることも多い。 (外部評価) 職員は利用者の生活リズムや一日をどう過ごしたいかを大切にした支援をしており、一人ひとりの思いを聞きながら対応している。また、職員は利用者へのケアでお互いに気になる言動があれば、注意し合っている。	※	今日一日をどう過ごしたいか。入居者と一緒に考える時間を持っていこうと思う
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者の希望に合わせて理、美容の利用をしている。外出が困難な場合には出張美容を利用される方もあり、選択できるようになっている。また洗面のときに一緒に見出しなみをととのえたりする姿がよく見かけられる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者は「もうごはんかな」ととても食事を楽しみにされ、職員と味を共感できている。それぞれ好みに応じてメニューを変更することもあり、柔軟に対応している。入居者が片付けに協力してくれたり、味付けのアドバイスをくれることもある。 (外部評価) 職員は経口摂取を大事と考え、時間がかかっても自力で食べられる利用者を見守り、状態に応じてきざみ食で対応するなど配慮している。美味しく食べられるよう献立や味付けにも工夫し、時折ホームの庭での食事会も行っている。また、料理の下ごしらえや片付けも利用者とともにしている。	※	畑の収穫を一緒に楽しみながら調理できる。洗濯物をとりにいったついでになすやきゅうりを摂って帰ったりしながら楽しみを見つけている。調理に参加できる方が少なくなってきたがもっと下準備などに協力してもらえようとする。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品については入居時にきき、日常的に望まれる場合には楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個別に排泄パターンを把握して、アセスメントしている。介護計画にも生かして、経過を追って支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴前にバイタルチェック・健康状態を確認して本人の希望に沿って、日や時間を配慮している。比較的入浴を楽しみにされる方が多い。日々の日課として定着されている。  (外部評価) 利用者の希望にそった入浴支援をしている。入浴を望まない場合でも3日に1回程度は入浴できるよう配慮している。介護度の高い利用者にはリフト使用での入浴も可能である。	※	重度化している方の入浴方法が課題である。清拭や部分浴に限らず全身浴をさせてあげたい。リフトや昇降機による入浴は可能である。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれの活動リズムに合わせて支援している。湯たんぽを使ったりする方もあれば、空腹を満たして満足されて眠られる方もある。室内の温度や掛物の調節も配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本人のできること、やり続けられることを中心に楽しみに結びつくように支援している。アートフラワー教室に参加したりして楽しみをみつけられる方もあれば、毎日の暮らしに張り合いがあるかは難しい方もいる。  (外部評価) 職員はアートフラワー、花壇の水やりや草ひき、近くの喫茶店でのひととき、料理の下ごしらえ、掃除、洗濯物たたみ等、利用者の気晴らしや役割をともに楽しみながら支援している。	※	生活歴、趣味を生かせる場面をもっと多くもてるように支援する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 入居当初は自己管理できる方も多かったが、最近は困難な方が多い。お小遣いとして金庫にあずかり、必要な時に職員の支援を受けて使うことが多い。定期的に家族にお小遣い帳も確認していただき、不明な点はない。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 長時間歩行による散歩が困難になってきている方が多い。外気浴を楽しんだり、買い物やドライブを企画して支援している。	※	外食にユニットで出かけることもあるが御家族も一緒に外出を楽しめる機会を持ちたい。
			(外部評価) 車いすの利用者も一緒に買物やドライブ、喫茶店へ出かけることもあるが、一人ひとりのその日の希望にそった外出支援は十分ではない。	※	利用者が戸外の気持ちよさや季節感を感じながら生き生きと過ごすことを支援するためにも、近くの店舗への買い物やホームの敷地内を花壇や菜園を眺めながら散歩する等、さらに戸外に出かける機会づくりの工夫を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ちょっとした外出もあり遠出は年に数回実現できている。車椅子の方も多く、休みの職員の協力や家族の協力を得ている。	※	まだまだ外出支援の機会が少ない。年間行事だけでなく、月間行事計画にも外出計画を入れていく。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 日常的にできるように支援している。手紙のやり取りについても希望を聞いて支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 来訪者には笑顔であいさつしている。お茶を勧めて希望の場所で談話してもらっている。会話もスムーズにすすむように間に入って支援することもある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 正しく理解するために学習会や回覧研修を行っている。また医療上、生命に及ぼすような事項については同意書をいただき、定期的に検討している。	※	個別に状態をアセスメントしながら拘束のないケアを目指していきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は開放している。早朝夜勤者が一人のときは開放できないときがある。  (外部評価) 職員は鍵をかけないことの意義を理解し、玄関には日中鍵をかけていない。利用者が一人で外を出歩いていると、同じ敷地内のデイサービスの職員や近所の住民が知らせてくれる。	※	入居者の希望に合わせて日中は外で花を楽しんだりできるが、転倒の危険があり、介助が必要な入居者については一緒にすぐ出られない場合もある。できるだけ希望にかなえられるように支援していきたい。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ホールから全体が見わたせ、記録、食事、洗濯たみも入居者の安全が確認できる場所で行っている。居室で過ごされている入居者は度々訪室して安全の確認をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 本人が管理できる方については本人に管理していただき、その他の場合には必要なときに提供している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 入居者個々の状態に応じてリスクを考えて事故防止に努めている。		グループホームでの情報提供に限らず、敷地内の事業所所にも情報提供して協力を求められる体制にしている。




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時マニュアルを使って研修したり、救命講習を受講したりしている。マニュアルは職員が見やすい場所に置き、確認しやすいようにしている。		特に夜間の緊急時には協力医療機関の協力を得やすい。場合によっては看護師の協力が得られる。また必要な医療器材もそろっている。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施し、運営推進会議では災害時にも協力し合える体制の強化について話すこともある。消防署で実施される防災トークに参加して、認知症高齢者が被災した場合の課題について講演したりしている。  (外部評価) 年に3回、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。ホームは地域の自主防災会に入会し、消防署の防災トークにも参加している。ホームのある敷地の庭は広く、地域の避難場所にもなっている。災害時連絡網の中に町内会長も入っている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒、誤嚥など個々に考えられるリスクについて話し合い、支援計画に課題としてあげている。できるだけ、自由な暮らしと時間を過ごせるように支援している。	※	今後も個々に考えられるリスクについて検討していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝のバイタルチェック時に異変があれば主治医に報告している。経過を追って体調を見て記録に残している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方される薬を分包してもらって個別に管理しやすいようにしている。また効能、注意事項をまとめて個別にファイル化して変更があってもわかりやすくしている。定期的に処方録をいただき、変更について確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や腹部マッサージなど行っている。しっかり水分補給できているか確認している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔内の清浄に努め、また義歯は毎夕洗浄して消毒している。口腔の状態に応じて支援している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 疾病、嚥下能力に応じて食事の形態や食材を変更したりして工夫している。チェックが必要な方は水分出納のチェック表を作成して確認している。  (外部評価) 食べる量や水分量を毎回チェックしている。一人ひとりの状態に合わせてミキサー食やきざみ食にしたり、利用者の力量に応じた介助をしている。献立の栄養バランスは運営法人内の栄養士がチェックしている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症対策マニュアルに沿って実行しており、学習会を実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材の取り扱いについては衛生管理マニュアルに沿って実行している。台所を清潔に保つようになっている。調理器具については夕食後に消毒している。感染症が多発するときは毎食後消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 敷地が広いため施設的なイメージがあるが、インターホンを取りつけていたり、建物周囲に花や野菜を植えて家庭的である。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家具は一般家庭と同じような家具で、共有スペースも広く、ゆったりと入居者が輪になってくつろげる空間づくりの工夫をしている。  (外部評価) 随所に空気清浄機を設置し、気になる匂いはない。共用空間はゆったりしており、居間は家庭的なソファや棚、絵画、時計等が飾られ、畳の間もあるくつろげる空間となっている。浴室、トイレ等は朝夕塩素系漂白剤で拭いており清潔である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有部分にソファがあり、TVを見て過ごしたり、居室で過ごしたい方は居室でもくつろげるような工夫をしている。外に椅子を置いたりして、花を見て楽しむことができる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できるだけ入居前の個々に合わせて馴染みの家具や調度品を持ち込んでいただいている。家族との写真ははったりして入居者が見て楽しめるものを置く居室もある。  (外部評価) 居室は利用者の使い慣れたいすや小ダンス、時計、お気に入りのぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせる部屋になっている。仏壇を居室に置き、お供えや線香をあげる利用者もいる。畳の居室も2室ある。	※	自室に馴染みのものが少ない方には今後も声かけしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 定期的に換気し、特にトップライト部分から常時空気を入れ替えられるようになっている。また室温に注意し、入居者に確認している。トイレには脱臭器があり、冬場は加湿器を使って空気の乾燥を防いでいる。床暖房を有効に使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要な個所に手すりがあり、利用できる。ホールが広く、車椅子の方が自走できる。		入居者、ユニットの原状に応じて環境面を見直している。おおがかりな補修でなくても済むこともあるので、職員で検討しあって工夫している。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 認知症の程度や認知機能を見極め、自然な形でできることをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 敷地内の花壇や池を眺めることができ、外でゆったり過ごせる椅子もある。食事やおやつを外でいただいたりして楽しみを見つけている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	入居者の思いや意向は大切に考えている。暮らしの希望をうまく表出できない方はその時の表情や感情から読み取るようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	外気浴を楽しみながらゆったり過ごしている。しかし昼夜通して職員もゆったりと過ごす時間が取れないほど排せつ介助に時間を費やすこともある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ひとりひとりのペースを把握してそれぞれに支援していけるように取り組んでいる。しかし、すべての入居者、すべての場面で納得いく暮らしであるとは言えない。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員との会話や作業をしているとき、外出の際などにはとてもいい表情がみられる。写真をとるとわかるが、どの写真もいきいきしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全員がいつでも行きたいところへ行くことはできていない。計画的に怪我のないように出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医と連携して必要な場合は専門医の受診をしたり、検査入院して安心して過ごせる支援をしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者の要望が困難かどうか、ともに話し合い、柔軟に考えている。要望を聞き出せる職員がたくさんいてもそれを共有して実現に向けた努力は惜しまないようにしたい。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	入居者の近況を詳しく説明して不安な部分をじっくり聴くようにしている。制度的な部分や地域とのつながりに関して主に担当してくれる職員がいる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	家族以外の方が訪ねてこられる方は限られている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方々とのつながりができてきており、地域から期待される部分もある。地域と一緒に行事を楽しむこともある。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が離職することがあると、気持ちがなえることもある。ストレスマネジメントについては今後の課題である。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	共同生活であるので、互いに我慢している部分もあると思う。認知症の程度の違いもあるので、理解できる部分の違い
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	御家族が入居者の生活を見て、いきいきとしたその表情に安心できるように、御家族の言葉を大切にして支援していきたい。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・入居者の生きてきた生活歴を大切にしている。御家族に日頃の様子を詳細に伝え、また手紙に介護状況を伝えるようにしている。・地域と密に連携をとり、地域に根ざした事業所を目指している。・関係機関との連携も密にして入居者の暮らしがどういった場面でも継続できるように努めている。・入居者の暮らしだけでなく、介護する職員の姿勢が「明るく、楽しく、穏やか」であるように努めている。・研修活動に関する事業主の理解があり、より多くの機会を提供してくれ、その保障もある。・しっかりとした医療面のサポートが得られる。